

会山行No.2483

中央アルプス:木曾駒ヶ岳

- ◆日程 2024年4月6日(土)~7日(日)
- ◆メンバー L: TY、SD、OT、KT、OB

「将基頭山」は南アルプス、木曾駒ヶ岳から連なる山で、少し前から積雪期に登りたい山として気になっていた。昨年企画されたものの、悪天候で転身となってしまったため、今回やっと足を運ぶ事ができた。

4月6日(土) 天候:曇のち晴れ

朝9:00に桂木場の登山口に到着。全く雪がなく温かい。ヤマテン予報でも木曾駒ヶ岳の山頂で最低気温がマイナス4度、今回は暖かい山行になりそうだ。心配していた雨も降る気配がなく、これなら初日に西駒山荘までのぼり、翌日木曾駒ヶ岳を目指せそうだ。

最初は山腹をつづら折りの登山道をあがっていく。薄曇りで、歩くには丁度良い気温だが、登りが続くと汗ばむ。登山道は所々氷が残っているとこもあり、滑らないように慎重にあるいた。登って行くと徐々に雪も増え始め、大樽避難小屋に着く頃にはしっかりと雪山になっていた。何人か下山してくる人もすれ違い、聞くと山頂は展望があるらしい。期待が膨らむ。

大樽小屋から上は急登になり、時々踏み抜きに苦しみながら(KTさんが時々ハマっていてちょっと面白かった。ごめん。)、一歩一歩のぼっていった。急登が終わり稜線にでると、目の前に木曾駒ヶ岳までの稜線がくっきりと現れた！これは良い！将基頭山の山頂までもあと少しだ。

稜線は夏道も殆ど出ていて、雪のあるルートにトレースもあったが、アイゼンを履いていなかったので夏道の



ルート歩くことにした。ここまでの急登で大分疲れも溜まっていて、あと少しの筈の山頂が遠く感じる。ゆっくりと歩きを進めて山頂へ。山頂からは木曾駒ヶ岳、宝剣岳がよく見えた。木曾駒ヶ岳までの稜線が美しく、明日歩くのだと心が弾んだ。

西駒山荘は山頂から少し降りた所であり、避難小屋(石室)をあてにしていたのだが、中に入ってみると吹き込んだ雪が溶けて床が水浸しだった。これは外でテントの方がよいかも...となり、シャベルを出して土木工事をし、テントをはった。風もなく、テント内は暖かく過ごすことができた。



CT:桂木場登山口9:20-大樽避難小屋12:10/12:30-将基頭山15:20/15:30-西駒山荘15:35
(泊, 就寝19:30)

4月7日(日) 天候:晴れ

朝3:30に起床、ガスがかかるような予報だったが外を覗くと満天の星空が広がっていた。これは今日も期待出来そうだ。

朝ご飯を調理中にこぼすトラブルがあり、少し予定より遅れて5:30にテントから出発。丁度朝日が登るところで、雪がピンク色になっていた。将基頭山の山頂まで登ると、木曾駒ヶ岳までの稜線もばっちりくっきりだ。迷いようもない稜線を、朝の空気を堪能しながら歩きだす。人も少なく、我々の貸切のような気分だ。途中雷鳥とも遭遇(白い子は初!!)し、かわいい!かわいい!と皆で盛り上がった。



山頂までは標高差は200メートル強とそこまでのないのだが、途中岩がちな急登や、短いながらも緊張するトラバースもあり、単調にならず楽しい雪稜歩きになった。

山頂に立つと、目の前に御嶽とそこから乗鞍と北アルプス、宝剣とその背後に連なる中央アルプスの稜線、甲斐駒ヶ岳から聖岳まで続く南アルプスが全て一望できた。

これは良いね、最高の山行だね、これで良かったねと皆ハイテンション。1週間前の予報では雨も心配していたのに、最高のコンディションだ。しかも将基頭山の予定が木曾駒ヶ岳まで登れた。ここまでこれた事が嬉しかった。



山頂の景色を堪能してから、帰路に着く。帰り道の稜線歩きも楽しい。テントを撤収し、山を降りて行く。天気は崩れることもなく、日差しも暖かくて最後の方は初夏のような陽気だった。

お風呂で汗を流して帰路についた。

(記:OB)

CT: 西駒山荘5:30-木曾駒ヶ岳7:30/7:50-西駒山荘9:00/10:00-大樽避難小屋11:40/12:00-桂小場登山口13:50

